



## 想像のつばさ

校長 吉田 亘

再び、村岡花子の話であるが、NHKのドラマ「花子とアン」では、「想像の翼をひろげる」ことが大きなテーマになっていた。主人公の安東はなは、子供時代に読書から様々な世界を想像することを通して豊かな心を育成し、児童文学作家になってからは、子供たちに想像の翼を持たせるために、戦前・戦中の苦しい時代の中でも作家活動を続けていた。

この「想像する」力が人間特有のものではないか、と研究を続けている人達がいる。その中の一人が、京都大学霊長類研究教授の松沢哲郎氏である。皆さんの中には、チンパンジーの「アイ」という名を聞いたことがあるものがあるかもしれない。4年ほど前に、数字を理解するチンパンジーとしてマスコミに注目された。そのプロジェクトの中心者が松沢教授だ。

松沢氏は、都立高校を卒業後、京都大学の文学部哲学科に入学した。ところが、期待する授業を受けられず山岳部で山登り三昧の日々を送ることになる。その後、哲学書を中心とした講義を受けるが、自分のやりたいものとは違っていると気づき、実験や観察を通して人間の視覚や思考について研究する、実験心理学に強く惹かれるようになる。大学時代の後半は、人間の視覚の研究、その後脳について科学するようになり、大学院ではネズミの脳の研究を行っている。そして、京都大学霊長類研究所の助手となって、「サルが世界をどう見、どう行動し、学習するか」の研究を続けている。

松沢氏の著書「想像するちから ～チンパンジーが教えてくれた人間の心～」の中では、長年のアフリカにおける野生チンパンジーの観察と、松沢氏が日本で飼育し実験したチンパンジー「アイ」とその子「アイム」の研究を通して、野生のチンパンジーは簡単な道具を使用することができること、さらに、人間の「教育」によって、チンパンジーは、数字や漢字、簡単な図形を覚えることができることなどが説明されている。特に、「アイム」にディスプレイ上で0.21秒間、7、8個程度までの数字の位置を画面上に表示し記憶させ、すぐに伏せ字にしても、順序を指し示すことができるという人間にはできない「直観像記憶」を持っていることが書かれている（図参照）。しかし、チンパンジーは、「今、この世界」に生きていて、明日のことを考えることや他の「心」に思いを寄せることはできない。人間とは「想像する」という部分が違う。「想像する」ことができるのは、人間の特色であると結論づけている。



皆さんは、想像するちからを十分に発揮しているだろうか。想像を辞書で引くと「既知の事柄をもとにして推量すること。」とある。想像力を豊かにするためには、「既知の事柄」を豊かにすることと「推量する」能力を高める必要がある。その基本は、日々の学習、授業だ。自分の将来を想像し、それに向かって努力してほしい。

## グローバルと自分

副校長 野村 悟

先日、所用で電車に乗っていたら、偶々隣に座ったグループの人たちが外国語、それも英語、独語、仏語、中国語、韓国語以外の言語で会話をしていた。その言語が何語であるか理解できなかった。

また職務上、新宿の教育庁へ出張することが多い。その際、西新宿の街中を歩いて通るのだが、日本語以外の言語が飛び交う場面に遭遇することも珍しくない。

さらに卑近な例でもあるが、実は、稿者の着ているシャツも靴下も日本国産以外のものである。また、今日の昼食で食べた食材も同様であるかもしれない。

このように日常生活の中でも【グローバル】ということを感じる場面が実に多くなっている気がする。

【グローバル】の定義は難しいが、国や地域や国境などを超え、物事が地球全体規模で展開することが多いと解釈できよう。わたしたちは、このグローバルの世界に、好むと好まざるとに関わらず、現代の社会を生きざるを得ない。

この現代社会のグローバル化にあたり、高校教育の中でもその対応出来る力を育成する場面を構築する必要性に迫られているのか、と考えることが多くなっている。

本校では8月からJ E Tというプログラムがスタートし、米国から非常勤の教員として一人の先生が赴任している。まさに異文化を理解する機会でもある。

柔軟性を備えた高校生の早期段階から、国際化の意識を涵養し、グローバル化への対応力を育成していくことは大きな課題なのかもしれない（正直なところ、実感として把握しきれていない訳ではないが）。腑に落ちる思考としては、価値観が多様化する社会の中で、自分の考えを他者に伝える力を身につける必要がある、ということであろう。「自分ならば、どう考えるか、どう対処するか」ということを日常的にトレーニングしておく必要がある、ということである。そのことが、自分とは異なる価値観を理解するというにもつながるのではないかと考える。

遠くはない未来、おそらく10年先の社会を考えた際に、田園調布の生徒たちが、グローバル化した社会で活躍していくために、あるいは日本社会を支えるために、幅の広い能力が要求されるのは論を待たずでもない。

そのために、今私たちが出来ること。条件などを最大限整備して、積極的に対処できる力を涵養していくことなのだろう。国際感覚やコミュニケーション能力、チャレンジする精神などどれもが必要不可欠な力といえる。早期の段階で異文化を経験させて、自身を見直すことと、様々な課題にも粘り強く挑戦しようとする。その未来の若者を本校で確実に育成することができれば、これからの日本は必ず大きく変化すると考える。

変化している社会の中で、活躍できる人材を育成するためにも、志のある若者の育成するためにも、現在置かれている田園調布高校が果たす役割は大きい。

## ぼろにあ祭お疲れ様でした!!

生活指導部 谷岡信幸

9月13日と14日に第50回ぼろにあ祭が開催されました。活動している生徒の姿を見てみると、「田高生活を本当に楽しんでいるのだなあ」と思いました。学校行事に真剣に取り組んだことは大きな財産になると思います。

1、2年生全員が投票をするという3年生の演劇祭は、ぼろにあ祭の目玉の1つです。どのクラスの演劇も、とても素晴らしいものだったと思います。優勝したクラスの演劇は特に素晴らしく団結力と練習の跡がよく感じられました。役者の演劇力も高かったと思います。また、演劇祭全般で「闘い」のシーンが多く見受けられましたが、それぞれの個性を生かした表現方法をとっており、興味深いものでした。私は、表現者として活動することもあるのですが、あるクラスの演出では「目から鱗」と感じる演出があり、私の舞台の演出の参考にしようと思いました。

2年生の各企画も、楽しさと真剣さがよく伝わってきました。彼らが1年生の時の企画も見ましたが、成長ぶりがうかがえました。今年の実験を生かして、来年はきっと、この上なく魅力的な演劇を見せてくれるだろうと期待しています。

1年生は、初めてのぼろにあ祭でしたが、戸惑うことなく全力を尽くせたでしょうか。昨年には無か

ったプラネタリウムを企画したクラスもありましたが、どのクラスも知恵を振り絞った結果、良い企画に辿り着いたのではないのでしょうか。

部活動や委員会などの企画も、目を引くものが多くありました。特にフォークソング部のライブは、足を運んで良かったと思っています。普段の授業の様子とは異なる輝きを放っていました。ぼろにあ祭とは、自分の良さを表現できる場所なのだと改めて感じました。

最後になりましたが、ぼろにあ祭に関わった全ての皆様には深く感謝申し上げます。ありがとうございました。また、お疲れ様でした。来年のぼろにあ祭が今から楽しみです

## 田高進路プロジェクト

進路指導部 池田麻奈

『田高進路プロジェクト』による進路行事が以下のように行われました。

### 1. テーマ別キャリアガイダンス NO3.「俳優のしごと」1～3学年希望者対象

日 時 平成26年7月8日(火) 3:00～5:00

講 師 秋田雨雀・土方与志記念 青年劇場 俳優 浦 吉 ゆ か

舞台俳優の世界について先生にお話しいただきました。演劇論、スタニスラフスキーシステムに関するお話や役作りのための練習方法、一つの作品や舞台を作り上げるための劇団全体の取り組みの過程など、先生の長年の経験をもとにしたお話を伺うことができました。

また当日は先生による「鉛筆雛」の朗読や演劇ワークショップも実施して頂きました。

### 2. 学年別キャリアガイダンス 1年集中講座「しごと」第1学年生徒全員(各講座に分かれて受講)

日 時 平成26年7月15日(火) 10:00～12:00

当日の講師と講座は下記のとおりです。9つの分野の職業について一線で活躍されている講師の皆さんにお話しいただきました。将来の職業選択に役立つ見識を深めることができたのではないかと思います。

#### 【講座と講師】

- |                     |   |    |        |                 |
|---------------------|---|----|--------|-----------------|
| 1 「化粧品のおしごと」        | … | 講師 | 宇野 晶子  | 資生堂 お客様センター     |
| 2 「通信のおしごと」         | … | 講師 | 中西 雅之  | コムシス情報システム      |
| 3 「都庁のおしごと」         | … | 講師 | 平松 優太  | 総務局行政改革推進部      |
| 4 「区役所のおしごと」        | … | 講師 | 岡崎 唯道  | 大田区役所           |
| 5 「警察のおしごと」         | … | 講師 | 種 康裕   | 警視庁             |
| 6 「海外ビジネスのおしごと」     | … | 講師 | 酒井 由紀子 | リエゾン・デートル       |
| 7 「生命保険のおしごと」       | … | 講師 | 青木 寛一  | メットライフダイレクト株式会社 |
| 8 「新聞記者のおしごと」       | … | 講師 | 恒川 良輔  | 読売新聞東京本社        |
| 9 「美容・エステティシヤンのしごと」 | … | 講師 | 中村 雅恵  | たかの友梨美容専門学校     |
|                     | … | 講師 | 百合草 裕樹 | たかの友梨美容専門学校     |

## ぼろにあ祭を終えて

1学年 荻原 秀明

9月13日14日「ぼろにあ祭」を多彩なプログラムで挑戦し経験しました。「楽しむぼろにあ祭」をコンセプトで挑み多くの思い出を作りました。1年生優秀賞は、A組ダンス「Let's Dream Dance show」二日間で3回講演を行い、回を重ねるごとにサブアリーナに入りきれないほど観客動員しました。映画や演劇、プラネタリウムも多くの来場者があり、見る側と作る側が一体となり大盛況で終わりました。今度は、合唱祭に向けてがんばります。 p ( ^ 0 ^ ) q

A組	ダンス	Let's Dream Dance show
B組	映画	恋を知らない宝石たち
C組	演劇	猫の国の物語
D組	映像・映画	Once Upon A Time world of D
E組	プラネタリウム	Which is Earth our planet
F組	映像	ムービー

## 修学旅行、来年度選択科目など

2学年 有馬 聡

10月4日(土)の保護者会には、多数の保護者の皆様のご参加をいただき誠にありがとうございます。

2学年は、現在、修学旅行に向けて本格的な準備の真っ最中です。今までも多くの事前学習を重ねてきましたが、長崎市内の班別自主研修の行程づくりや「しおり」の作成、民泊先への挨拶状の作成など、様々な具体的な準備作業を行っています。

また同時に来年度の選択科目の履修希望調査も行っています。来年度の選択科目を考えるということは、すなわち自分の志望する大学の実際の入試科目を把握するということであり、それは自分の将来を考えるということと不可分の関係にあります。例年、選択科目の最終決定は2学期中に行われます。今年度は最終的な登録用紙の提出締切は12月18日(木)です。生徒諸君には「各自、様々な情報を収集し、色々な可能性を吟味し、そして多くの人に相談してください。」とっています。もちろん、最後は自分で考えて自分で判断することとなりますが、他者と話すことによってそれぞれの考えが深まるということも少なくないと思います。ぜひ保護者の皆様におかれましても生徒諸君に様々なアドバイスをお与えいただき、生徒それぞれの自己実現にとって最良の選択ができるようご協力を賜りたく存じます。

修学旅行や来年度選択科目に関して、また、その他にもご質問やご相談などがございましたら、各担任へお気軽にご相談ください。よろしくお願い申し上げます。

## 生涯忘れられない文化祭

3年担任 増田 和明

私が高校2年生のとき、文化祭で「ひみつのアッコちゃん」の実写版を製作し、ビデオ上映することになった。当時、結構な硬派であった私に任された役は、『少将』(ガキ大将の『大将』の弟=飼い猫『ドラ』にまたがって登場)を拉致する怖いオジサン」だった。夏休みに薄暗い森の中で『少将』を拉致するシーンを迫真の演技?で演じたのだが、そのときのことを30年以上たった今でも鮮明に覚えている。

振り返れば、今年の劇祭の準備は6月頃から始まっていた。何をやるのか、だれが脚本を書くのか。配役はどうなるのか。担任団はハラハラ、ドキドキ。そして、ついに夏休み。どのクラスも、やっとのことでストーリーらしきものが決まった。そして、いよいよ大道具係と小道具係が動き出す。日に日に形になっていく大道具と小道具。夏休みの後半には、「なかなか、いいじゃん」と思ったりもした。9月に入ってから直前準備では、音響、照明の準備も本格化。役者のセリフにも魂がこもってきた。

本番はあっというまに終わってしまった。2日目には、上演前のミーティングで、「最後なので、みんな楽しんで！」とクラスのリーダーが声をかける。みんな同じ気持ちだった。内容の出来はともかく、やり終えた充実感があった。終えてすぐ、写真を撮って、大道具と小道具の解体・・・あんなに時間をかけて造ったあの大道具と小道具たちを粉々にしなければならないのは切なかった。

しかし、劇は本当にいいものだと思った。陰で支えたり、表舞台に出たり、活躍する場面はさまざまだが、一人だけでは決して完成させられないものだから。みんなで、「こうした方がいい!」「いやいや、ここはこうしよう!」と意見を交わしながらつくりあげた劇は、みんなにとってかけがえのない宝物となった。そして、協力するということの本当の意味を肌で体験できた劇祭だった。

こうして、私にとって忘れられない思い出がもう一つ増えた。3年生のみんなにとっても、ひよっとすると保護者の皆さんにとっても、忘れられない思い出になったのではないかな。感動を与えてくれた生徒のみんなに感謝、感謝。感動をありがとう。